

# 今月のお寺

127

## 智敬寺

(福井教区第十組)

福井県坂井市三国町錦四丁目三番二十八号

住職 木津祐昌

### 近吉崎(ちかよしざき)を訪ねて

福井県坂井市三国町にある智敬寺は、地域の人から「近吉崎(ちかよしざき)」と呼ばれ親しまれている。この名前は、吉崎御坊こと吉崎別院と同じく、蓮如忌を開いてきたことに由来する。

智敬寺が蓮如忌を勤める理由は、寺の歴史にある。当初は高田専修寺に属していたが、

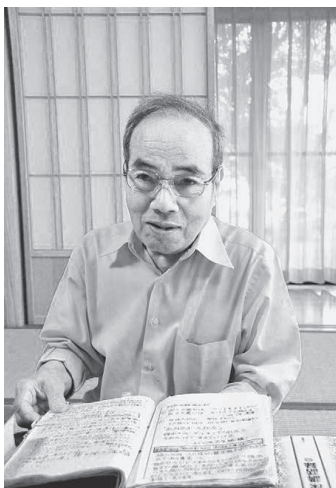


智敬寺に伝わる蓮如上人の御絵伝

吉崎御坊が建てられた一四七一年ごろ、蓮如上人が布教のために智敬寺に滞在。その際、当時の住職が門弟となり、以後、蓮如忌を勤めるようになった。

三国では、他宗の人であっても法要期間中には近吉崎に参るようにと、親代々からの言い伝えがあったという。本堂は参詣者であふれ、境内には露店が立ち並んだ。

住職の木津祐昌さんは、「それはそれは楽しかった。門徒さんが常に出入りするお寺でね。かわいがってもらったよ」と振り返る。吉崎



曾我量深師との出会いを語る 木津祐昌さん

別院とは車で十五分ほどの距離。三国では吉崎別院を「遠吉崎(とおよしざき)」と呼ぶ。

木津さんは大谷大学出身。仏法との出会いは、二十代半ばのことだ。一九六七(昭和四十二)年四月十二日、お連れ合いの実家である福井県越前市(旧武生市)の浄秀寺で、曾我量深師の講義を聞いたことがきっかけだった。

「とにかく往生は生きているうちに往生するんだと。そして命終わったときに、その往生の最後の到着点に来たことを、それを成



今秋で13号となった「智敬寺(近吉崎)だより」一つなかりを求めて

いたこともなかった」。そこから聴聞の歩みが始まった。

その後、教団問題などを課題として歩んできた木津さん。今、力を入れているのは門徒の編集委員とともに作る寺報だ。その名も「智敬寺(近吉崎)だより」つながり求めて」。二年二回、門徒や住職の文章を掲載し、今秋で十三号目となる。「編集委員会が、ひとつの同朋会になっているんだよ」とうれしそうに話した。

今でもあちこちで法話をし、自坊でもいくつかの同朋会を主宰する木津さん。気取らない振る舞いと、温かな眼差しが印象的だった。(福井教区通信員・藤 共生)

※寺には、蓮如上人の生涯を描いた御絵伝がある。明治期の作品で、作者は不明。吉崎別院を含め、蓮如忌を勤める北陸の寺院の一部には、蓮如上人の御絵伝が伝わる。四幅の掛け軸に「腹籠りの聖教」(嫁威し肉附きの面)などのエピソードが描かれている。

仏という。(略)

成仏は身にあり、往生は心にある。」「(曾我量深講話録(三))」。

これを聞いた木津さんは、「本当に驚いた。往生は生きているうちなんて、聞